

令和 4 年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分	令和 4 年度計画達成状況	評価 区分	自己点検・評価委員会	評価 区分	内部質保証推進会議
6. 教員・教員組織 【計画 33】（総務人事部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「計画達成のための方策」 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況 【計画 34】（企画部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の明確化を図った上で、F D活動を積極的に推進する。 「計画達成のための方策」 1. F D 活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。 「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況	【年度計画 33】 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況 【年度計画 34】 1. F D 活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。 「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況	Ⅳ ・教員の補充は科学技術振興機構(JREC-IN)ポータルにて公募を行い、書類選考、面接選考を通じて採用者を選抜した。そして、採用に加え昇格についても、教員選考規程及び教員選考基準に基づき教員選考委員会、人事委員会を開催し、公正かつ適切に行った。 ・令和 3 年度 教員配置数 244 名 (R4. 3 現在) 令和 4 年度 教員配置数 247 名 (R5. 3 現在) ・令和 4 年度の教員選考(採用)は、34 名であった。	Ⅲ ・授業評価については、令和 3 年度のアンケート結果を集計し、令和 4 年 11 月に学内及び大学ホームページにおいて公表した。学修及び生活に関する実態調査については、令和 3 年度実施分の集計結果を、一般向けに 5 月にホームページで公表した。また、令和 4 年度の実施は、12 月に実施し、昨年度より 16.9 ポイント低い 59.2%の回収率となってしまった。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	
・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科における F D 活動 の推進を図る。 「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 ○各学部・学科・研究科等 【計画 35-1】㊟(医療保健学部看護学科) 世界をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方を検討する。 「計画達成のための方策」 年 2 回の F D 研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。 「評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年 1 回以上実施 【計画 35-2】㊟(医療保健学部看護学科) 教員が国際学会での発表や英文誌に論文投稿できるよう、教員に英語学習機会を提供する。 「計画達成のための方策」 1. F D 委員会主催英語研修会を実施	・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科における F D 活動 の推進を図る。 「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 【年度計画 35-1】 年 2 回の F D 研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。 「評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年 1 回以上実施 【年度計画 35-2】 1. F D 委員会主催英語研修会を実施	Ⅳ	2. 令和 4 年度においては、10 月 26 日（水）に理事長及び学長による講話の形で開催した。対面、Zoom 及び後日オンデマンド配信での開催とし、各参加数の合計は 100% であった。 アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が 98.8%となっており、内容について好評であった。			
		Ⅲ	・春季 FD 研修会・活動報告会（3 月 22 日）に合わせ、教員研究交流会を企画した。教員研究交流会の目的は、学科内の他領域の教員との研究活動の共有を図ること、研究内容・手法について意見交換し、研究活動の発展の一助とすることである。			
		Ⅲ	・FD 委員会主催英語研修会（年 2 回）を継続している。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
することとし、受講者の希望に合わせ て継続的に開催し（年 2 回）、英語論文執筆を支えていく。 2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間 20 回ほど、1 時間程度の英語の自主勉強会を継続する。 「評価指標」 ・教員全員が 5 年のうち 1 回は英語研修に参加 ・教員全員が 5 年の間に 1 回は、国際学会（学術集会）に参加 <							

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
に、F Dの企画・運営を行う。 4. 公開講座の時期と内容等について立川市と検討する。 5. リサーチマップ登録・更新方法のガイドを紹介する。 6. リサーチマップの登録のメリットと方法に関するF Dを開催する。 7. 毎年度競争的研究費の受託件数を把握する。 8. 科研費申請に向けたF Dを企画し、毎年度内容を改善していく。 9. 毎年 2 月ごろ次年度の「住民を対象とした活動」について各領域や委員会に活動を促すとともに、次年度の予定を確認する。 「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のF D企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況 【計画 35-5】（千葉看護学部） D Pを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のF D活動を積極的に推進する。	P 上への公開。 5. 自己点検・評価報告書（立川）の作成。 6. 立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 7. 地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 8. 教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。 「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のF D企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況	Ⅳ Ⅲ Ⅱ Ⅳ	5. 6 月に大学 HP 上に「令和 3 年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 6. resarchmap の登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画で提供した。学外助成金は昨年度（17 件）と同程度（15 件）であった。 7. 立川警察署などが来校（10 月 11 日）し、広報活動などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロジェクトはコロナの関係で進んでいない。今後は、ボランティア活動だけでなく、災害看護の講義・演習なども立川市と協力して行っていく予定である。 8. 今年度の発表状況（学会発表 75 回、論文 22 偏）は、昨年度（学会発表 60 回、論文 19 偏）と比較して 15～25%の増加が見られた。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	
「計画達成のための方策」 1. 若手教員を対象とした基礎的 F D の実施。 教育経験の浅い教員を対象とした大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的 F D の実施状況 2. 学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をすることを意図した F D 研修を行い、教育・研究能力向上に向けた相互の学びを深めるとともに、大学・学部の D P 達成に向けての課題検討の基盤を構築する。 「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況 3. テーマに基づく F D 研修会開催。 過去の F D 研修の評価や、時々のトピックスを反映させた講演・グループディスカッションによる F D 研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。 「評価指標」 ・テーマに基づく F D 研修会開催状況 【計画 35-6】（和歌山看護学部） 教員の資質及び D P 実現に向けた教	【年度計画 35-5】 1. 若手教員を対象とした基礎的 F D の実施。 若手教員を対象とした基礎的 F D 研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年 2 回） 「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的 F D の実施状況 2. 学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体 F D 研修会を開催する。 「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況 3. テーマに基づく F D 研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解決に関連したテーマに基づく全体 F D 研修会を開催する。 「評価指標」 ・テーマに基づく F D 研修会開催状況	Ⅲ Ⅳ Ⅳ	1. 基礎的 FD に参加している 8 名の教員の進捗管理・支援を行い、2 名が授業参観を終えた。基礎的 FD の研修会を 1 回実施した（3 月 10 日）。2023 年度は、9 月と 3 月に 2 回開催できるよう計画的に取り組んでいく。 2. 活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 3. 夏季集中 FD 研修会において、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修（学生生活支援委員会）」「THCUC による地域貢献活動について考える（地域関連活動ワーキング）」「学生の体調不良、こんなときどうする？（実習委員会）」の 3 つのテーマでの FD 研修を行った。（当日参加 34 人、動画視聴 3 人、参加率 100%） ・そのほかに、委員会・プロジェクト等との共催企画として、「看護系大学を目指す受験生の動向を踏まえた広報戦略について（学修支援委員会：6 月 21 日）」「2022 年度の国家試験対策指導に活用できる情報の共有（学修支援委員会：9 月 5 日）」「入試の面接スキルについて（入試実施委員会：9 月 29 日）」「シミュレーション教育事例体験会（DX プロジェクト：3 月 17 日）」「カリキュラム評価プロジェクト FD 報告会（カリキュラム評価プロジェクト：3 月 20 日）」を行った。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
育力向上を目指して教員のF D 活動を積極的に推進する。 「水準達成のための方策」 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたF Dの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とD Pの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。 「評価指標」 ・教育経験の浅い教員を対象としたF Dの実施状況 ・新採用教員を対象としたF Dの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有F Dの実施状況 <						

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【計 35-7】㊦(大学院医療保健学研究科) 教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・研修会に参加できる調整を行う。職位に関わらず、一人年 2 回の学術集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。 「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年 2 回	【年度計画 35-7】 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年 2 回	Ⅲ	1. 各領域における 3 P を作成し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院として検討した。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入に関しては、現状の中では導入に至る取り組みはできていない。 3. 国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが 1 名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年 2 回程度はできてきているが、今後は国際学会への参加や発表まで至ることを推進していきたい。 4. 産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進していきたい。 これらを通して、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。				
【計画 35-8】㊦(大学院千葉看護学研究科) 大学院における教職員の教育力の開発推進。 「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。 「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況	【年度計画 35-8】 大学院担当教員/職員を対象とした情報交換/研修会を、年 2 回開催する。 うち 1 回は他研究科との合同研修とする。 主たるテーマは情報共有とする。 「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況	Ⅲ	・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院 FD 研修会を行った。千葉看護学研究科教員 21 人、事務職員 1 人の参加があった。 ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。2023 年度は、学部夏季集中 FD 研修会における実施など計画的に取り組んでいくこととする。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
【計画 35-9】㊦(大学院和歌山看護学研究科) 研究科を担当する教員の教育・研究指導能力の向上を図り、学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 大学院における教育・研究能力開発のための F D 研修を実施し、その向上を図る。 「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. D P を実現するための学部専門領域を横断的にした研究領域の編成を継続する。 「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指標」 研究発表・投稿状況 【計画 35-10】㊦(助産学専攻科) 教員としての自己研鑽を図る。 「計画達成のための方策」 1. F D 研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参	【年度計画 35-9】 1. 大学院担当教員を対象とした研修会を、年 2 回開催する。うち 1 回は他研究科との合同研修とする。 「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. 教員の異動時に、研究領域の担当教員が学部の多様な専門領域で編成するよう配慮する。 「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指標」 研究発表・投稿状況 【年度計画 35-10】 1. F D 研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参	IV	1. 新しく大学院担当となる教員が加わるために「大学院和歌山看護学研究科の特色と発展に向けて」というテーマで設置の趣旨及び特色について共有することを目的にして行った。今後の課題として学生の確保、教員組織の充実等への取り組みを確認した。 千葉看護学研究科との合同研修を、大学院生及び教員を対象に「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」というテーマでそれぞれの研究科から学生と指導教員から報告があり、ディスカッションを行った。 ・2 回の開催ができた。1 回目オンライン参加 47 名、9 割が満足で、実務の参考になったと回答した。千葉看護学研究科との合同研修の参加は合計 87 名、和歌山からは 40 名で 85%が満足で今後の指導に役立つと回答した。 2. 新採用教授 2 名に加え、教授 2 名、准教授 3 名、講師 3 名を大学院担当として加え、3 つの領域に学部の専門領域が多様になるよう配置した。 ・3 つの領域に学部の専門領域 3～5 領域の教員を配置し、できるだけ広い視野で研究に取り組める体制を整えた。 3. 教員は学部との兼任であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼任教員の研究成果は、自己申告の概算であるが、研究発表 10 件、論文掲載は 13 件であった。 1. 助産学専攻科（母性看護学含む）の教員に対して、臨床推論に関する学習会を開催し、F D 研修会として学びの場を設けた。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. C B T・O S C Eの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 「評価指標」 ・自己研鑽のための研修等の参加状況 【計画 35-11】㊦(和歌山助産学専攻科) 助産学を教授する教員の能力向上に務める。 「計画達成のための方策」 全国助産師教育協議会への参加、地方部会での役割遂行を通して、助産学を教授する教員の能力向上に務める。 「評価指標」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況 【計画 35-12】㊦(産後ケア研究センター) 産後ケアの実際に触れ、地域における母子支援の在り方を探求し、実際のケアを提供するとともに研究的な取組を行うため、教員としての自己研鑽を図る。 「計画達成のための方策」 1. 品川区への報告書の作成。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オ	加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. C B T・O S C Eの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 「評価指標」 ・自己研鑽のための研修等の参加状況 【年度計画 35-11】 全国助産師教育協議会主催総会・研修会等に 1 名が 1 回以上の参加と専攻科内の情報共有を行う。 「評価指標」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況 【年度計画 35-12】 1. 品川区への報告書の作成。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オ	Ⅳ	2. 全国助産師教育協議会などの教育団体での研修に、全国及び地区研修会に参加して学びの場を設けた。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催上記項目の 1・2にも准じて学びの場を設けた。 4. C B T・O S C Eに関しては、全国助産師教育協議会の研究に参加して、作問したり、検討したりする場に参加して、今後、研究室での実施のための勉強会の開催に向けての学習を行った。 5. 裂傷縫合は、医師による助産学専攻科の講義・演習に参加し、経腹エコーに関しては、大学院を含めての学修使用とするために、監視型のエコー機器を購入できたので、今後は研究室内、助産学専攻科、大学院においての技術の教育のための自己研鑽の実施および研究に役立てていきたい。 ・学会、他大学の助産に関する研修会等にも積極的に参加し、情報の共有、意見交換し教員の能力向上に努めた。 ・全国助産師教育協議会主催の総会・研修会に 3 名が参加した。母性看護専門看護師として実践研修、NCPR インストラクターとしての研修など実践的な研修にも参加し。			
		Ⅳ	1. 品川区への報告書の作成は、年 2 回実施し、報告に至っている。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型へ、研究室の教員および大学院の院生の参画を図り、学修に繋がられた。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オンラインなど）は、11 月から 12 月に助産学専			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
ンラインなど)。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価。 6. 実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。 「評価指標」 ・ F D 研修及び自己研鑽状況 【計画 36】（研究協力部） 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。 「計画達成のための方策」 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 「評価指標」 ・ ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数 【計画 37】（総務人事部） 教員の教育研究活動等の実績・成果について、教員個々の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目につ	ンラインなど)。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価。 6. 実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。 「評価指標」 ・ F D 研修及び自己研鑽状況 【年度計画 36】 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 「評価指標」 ・ ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数	Ⅱ	攻科生の健康教育の一環として、産後 1～2 か月、産後 3～4 か月に分けて実施した。3 回に分け、各 5～6 名の参加者を得られ、オンラインで実施できた。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価 5 月から 6 月にかけて 3 日間で研修課を実施、ブラッシュアップは 12 月に実施した。 5. 学生実習の受け入れは、2～3 年生の母性看護学実習の一部と 4 年生の看護の統合実習、助産学専攻科生に対して実施し、学修につながる事ができたと効果も得られたと運営・評価ができた。 6. 産後ケア研究センターにおいて、フィールドとなる実践の場を得て、5 でも述べているが、学生・院生、教員共に、ケアの質および技術の教育の向上を図ることにつながっている。 ・ 東京医療保健大学紀要第 17 巻の作成にあたり、それまでの投稿申請、論文受付の 2 度に渡る手続きを簡素化する観点から、投稿申請と論文投稿を同時手続きとしたが、投稿件数が 13 件と前年度に比べ大幅な減少となった。さらに、体調不良等があり投稿論文が 2 件辞退という結果となり、最終的には 11 件での公開となった。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
いて、学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。 「計画達成のための方策」 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催する F D 関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。 「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	「年度計画 37」 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催する F D 関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。 「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	Ⅱ	1. 今年度は新型コロナの影響があり教員の授業参観の実績同僚評価（ピアレビュー）については、一部で実施したが、具体的な取り組みには至らなかった。各学科で徐々に開始している状況にある。今後積極的に取り組んで参りたい。				
		Ⅳ	2. 助教以上の全教員から、5 月に令和 3 年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションプランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実績評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各 100,000 円を配分し処遇に反映させた。 令和 4 年度は 10 名が選出され、9 月 7 日に表彰式を行った。				